

4 文化・スポーツ

基本施策18 スポーツ

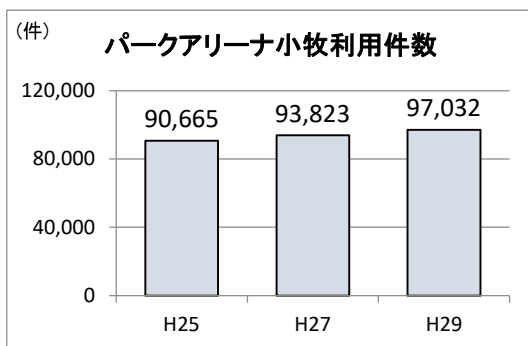
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 国の第2期スポーツ基本計画では、スポーツを通じた健康増進、共生社会の実現や経済・地域の活性化など、スポーツを通じた活力ある社会づくりに取り組むことが位置づけられました。
- 愛知県は、スポーツ推進計画において、県民一人ひとりがそれぞれのライフステージに応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、活力ある「スポーツ愛知」の実現を目指すこととしています。
- また、令和8(2026)年には、「2026年アジア競技大会」を愛知県及び名古屋市で開催することとしており、大会の開催に向けて、県内各地が競技会場として検討されています。小牧市ではバレーボールや野球が候補会場として検討されており、小牧市においてもこの機会を活用し、スポーツの振興を図る必要があります。
- アンケート調査によると、成人の週1回以上スポーツの実施率は全体で46.1%ですが、20・30歳代の女性は20%台の実施率であるなど、年代や性別により差があります。
- 心身ともに健康で文化的な生活を営むため、スポーツの習慣化に向け、保健や介護、子育てなどの関係機関と連携を図りながら、自発的に気軽に取り組めるスポーツ環境の整備が必要です。また、さまざまなジャンルの指導者の育成や人材確保、スキルアップなど指導者の充実が必要です。
- 小牧市のスポーツ推進の中心的存在である(公財)小牧市スポーツ協会は法人化30年が経過していますが、加盟人数は減少傾向にあります。広く市民のスポーツ活動を支えるため、関係者・団体と連携を密にし、スポーツ活動の機会の提供の効率化や充実に取り組む必要があります。
- パークアリーナ小牧や南スポーツセンターなど8箇所のスポーツ施設を運営しており、年間で約99万人(平成30(2018)年度有料施設)が利用していますが、どの施設も土日祝日に利用が集中しています。また、各施設の老朽化が進行していることから、計画的な整備が必要です。

【参考データ】



◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的:目指すまちの姿】

市民の誰もがスポーツ活動に取り組むことができる環境を整備することにより、心身ともに健康で文化的な生活が送れるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
健康づくりのために、スポーツに取り組む必要があると考えている成人市民の割合	82.6% (平成29年度)	↗

◆基本施策の体系

基本施策 スポーツ	展開方向1	スポーツ活動の機会を充実します
	展開方向2	スポーツ活動を支える人材の育成と体制の強化を図ります
	展開方向3	安全・安心なスポーツ活動の環境を整備します
	展開方向4	2026年アジア競技大会に向けた取組みを推進します

◆展開方向1：スポーツ活動の機会を充実します

【目標】

○健康づくりから競技スポーツまで市民の多様なニーズに対応して、多くの人々がスポーツに取り組むことができる機会を充実します。

【手段】

- (公財)小牧市スポーツ協会、スポーツ団体、スポーツ推進委員^{*}、市公認スポーツ指導員と連携して、初心者向けスポーツ教室・講座の開催の充実を図ります。
- 市民の健康保持・増進のため、ライフスタイルや目的に合わせたスポーツプログラムの効果的な提供に向け、保健や介護、子育てなどの関係機関との連携を強化します。
- 健康づくりを目的としてスポーツに取り組むことができるよう、関係課・機関との情報共有によりスポーツ活動へ誘導することで活動機会の充実を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
健康づくりに関連した運動教室などへの参加者数	1,232人	↗
スポーツ教室などへの参加者数	6,600人	↗

◆展開方向2：スポーツ活動を支える人材の育成と体制の強化を図ります

【目標】

○多様化するニーズに対応するため、スポーツ指導者を育成するとともにその活動を支援します。

【手段】

- スポーツ指導者の育成やスポーツ推進委員、市公認スポーツ指導員のスキルアップと活動の充実を図ります。
- スポーツ指導を受けたい人や団体が指導を受けられるよう指導者とのマッチングが行える体制を充実します。
- 市、スポーツ推進委員、(公財)小牧市スポーツ協会や加盟競技団体、地域スポーツ団体が相互に連携し、効果的・効率的にスポーツの推進に向けての情報共有ができるようネットワークづくりに努めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
スポーツ指導者登録者数	298人	↗
指導者を対象とした研修会などへの参加者数	254人	↗

◆展開方向3：安全・安心なスポーツ活動の環境を整備します

【目標】

- 市民の多様なスポーツのニーズに対応した安全・安心なスポーツ施設を整備します。
- 安定的で効率的なスポーツ施設の運営を維持します。

【手段】

- 既存スポーツ施設の利用実態や老朽化の状況を踏まえた計画的な整備を推進します。
- スポーツ施設の利用ニーズに合わせて、施設の市民優先予約の拡大などに取り組むことにより、さらにスポーツに取り組みやすい環境整備に努めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
市が管理するスポーツ施設における維持管理上の不備による事故件数	0件	→
市が管理するスポーツ施設の年間利用者数	988,001人	↗
パークアリーナ小牧メインアリーナの利用率	78%	↗
パークアリーナ小牧サブアリーナの利用率	86%	↗
南スポーツセンターグラウンドの利用率	36%	↗

◆展開方向4：2026年アジア競技大会に向けた取組みを推進します

【目標】

○2026年アジア競技大会を市民のスポーツ振興につなげます。

【手段】

○2026年アジア競技大会の開催に向け、市民のスポーツへの関心を高めることにより、スポーツ活動の促進に努めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
2026年に愛知県でアジア競技大会が開催されることを知っている市民の割合	21.1%	↗

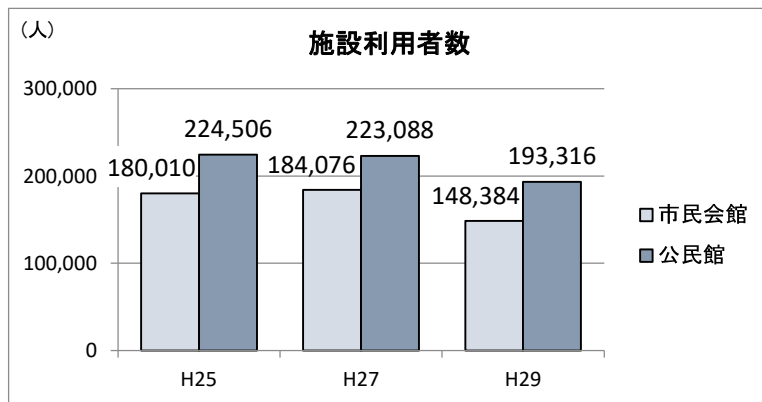
基本施策19 文化・芸術



◆現況と課題

- 豊かな歴史や文化を守り発展させ次の世代へ引継ぐことは、ふるさに愛着を持ち、生きがいをもって心豊かな生活を送るために欠かすことができません。小牧市の文化は、国指定史跡「大山麿寺跡」や小牧市のシンボリック的存在である国指定史跡「小牧山」など、豊かな歴史を背景に市民の多様な活動を通じて育まれてきました。
- 平成31(2019)年4月には織田信長が築いた小牧山城の石垣や城下町、小牧・長久手の戦いなど、小牧山を取り巻く歴史を紹介する「れきしるこまき(小牧山城史跡情報館)」が開館しました。小牧市歴史館とともに、市民や市外からの来訪者に対する史跡小牧山を中心とした小牧市の歴史の情報発信を充実していく必要があります。
- 小牧の歴史・文化に興味・関心を持っている市民の割合は、平成25(2013)年度の63.1%から平成30(2018)年度には58.1%まで減少しています。市民の郷土の歴史や文化への興味・関心を高めるため、小牧山をはじめ市内の文化財の魅力を伝えるとともに、保護・保存への理解を深めていく必要があります。
- 平成29(2017)年4月、専門的な知識や経験と、より柔軟で効率的な運営が可能な体制のもと、市民の自主的な文化活動を支援し、市民と共に新しい小牧の文化を創っていくことを目的として市全額出捐により「(一財)こまき市民文化財団」を設立しました。
- 今後も同財団と密接に連携しながら、文化活動に磨きをかける環境をつくるとともに、人と人・人と地域がつながる活動を支援することで、多くの市民が小牧市の文化に対して愛着や誇りを持ち、文化に親しみさらに活動の輪を広げていくことが必要です。
- 小牧市の文化の殿堂として多くの市民に親しまれている市民会館をはじめとした市内の文化施設には老朽化が進んでいるものもあることから、計画的に改修、整備し、施設の長寿命化を図っていく必要があります。

【参考データ】



【関連条例・関連計画】

- ・小牧市文化財保護条例
- ・第2次小牧市文化振興ビジョン
- ・史跡小牧山保存活用計画

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的:目指すまちの姿】

市民がともにつくる文化・芸術を育み、郷土の歴史・文化に親しむことで郷土への愛着を深め、誇りに満ちたまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
日頃から文化・芸術に親しんでいる市民の割合	50.7%	↗
日頃から文化・芸術に関する創作活動を行っている市民の割合	15.2%	↗
小牧の歴史や伝統文化に興味・関心を持っている市民の割合	58.1%	↗

◆基本施策の体系

基本施策 文化・芸術	展開方向1	文化・芸術の鑑賞機会を充実するとともに、市民の創作活動を支援します
	展開方向2	市民やさまざまな文化団体と連携し、文化振興の推進体制の充実を図ります
	展開方向3	小牧固有の歴史・文化遺産を保護・保存、活用します

◆展開方向1：文化・芸術の鑑賞機会を充実するとともに、市民の創作活動を支援します

【目標】

○すべての市民に文化・芸術を鑑賞できる機会を提供するとともに、創作活動を支援します。

【手段】

- (一財)こまき市民文化財団などと連携し、魅力ある文化事業を効果的・効率的に実施します。
- こどもを対象とした文化・芸術鑑賞事業を実施します。
- 文化活動に参加したくてもさまざまな事情により参加できない方を対象にした福祉コンサートなどを実施します。
- 学校・地域における体験活動やこども夢・チャレンジ文化事業など、こどもの創作活動を推進します。
- 市民美術展、舞台芸術祭、吹奏楽フェスティバルなど活動成果の発表機会の充実を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
市民会館での公演などへの参加者数	71,391人	↗
(一財)こまき市民文化財団などが主催するイベントへの来場者数	38,903人	↗

◆展開方向2：市民やさまざまな文化団体と連携し、文化振興の推進体制の充実を図ります

【目標】

- 子ども達に伝統文化や生活文化などにふれるきっかけを提供します。
- 市内の文化団体などの支援を行い、活動を活発にします。
- 文化施設の計画的な整備を行います。

【手段】

- （一財）こまき市民文化財団や小牧市文化協会と連携し、子ども達に書道や美術、俳句などの体験指導を行います。
- 市及び教育委員会の後援などにより、文化団体などの活動を支援します。また、文化活動における相談体制の充実により、文化団体などの活動の活性化を図ります。
- 鑑賞・創作・継承の拠点となる市内の文化施設の老朽化などに対応し、計画的な改修・整備を行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
子どもまたは親子で参加する文化体験教室などへの参加者数	1,649人	↗
小牧市文化協会加盟団体の団体数	92団体	↗
支援を行った文化団体が実施する事業への参加者数	30,046人	↗

◆展開方向3：小牧固有の歴史・文化遺産を保護・保存、活用します

【目標】

- 史跡小牧山の保護・保存、活用を図ります。
- 市内の歴史や文化財についての周知を市民に図ります。

【手段】

- 史跡小牧山の発掘調査を行い、歴史的な価値を明らかにするとともに、調査成果を元に史跡整備を行います。
- 歴史文化の分野で活動する市民活動団体や大学などと連携し、歴史や文化財に関する展示会や講座を開催します。展示会や講座は、若年世代の興味・関心を引くような内容の開催を検討します。
- 「れきしるこまき(小牧山城史跡情報館)」を活用した小牧山を中心とする歴史・文化遺産を指定管理受託団体である(一財)こまき市民文化財団や市民活動団体などと連携し、情報発信します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
小牧市歴史館及び小牧山城史跡情報館の入館者数	—	↗
指定文化財の数	44件	↗

基本施策20 生涯学習

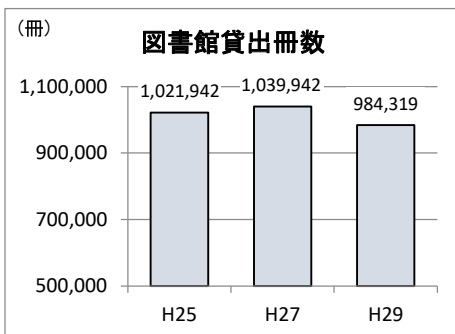
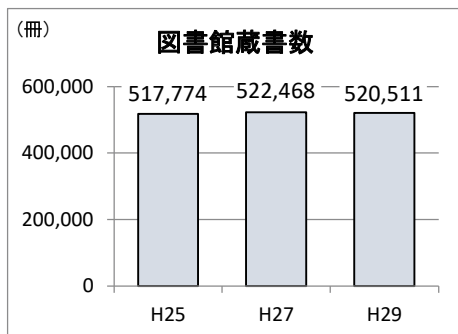
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



◆現況と課題

- 中央教育審議会(平成30(2018)年12月21日答申)では、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、多様化し複雑化する課題と社会の変化への対応の要請に対応して「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり」を示しました。
- 内閣府「生涯学習に関する世論調査」(平成30(2018)年8月)によれば、この1年間くらいの間に学習した人の学習した場所や形態(複数回答)は、インターネット22.6%、職場の教育・研修21.5%、自宅での学習活動17.8%、テレビやラジオ14.5%、図書館・博物館・美術館13.8%、公民館や生涯学習センターなど公的な機関の講座や教室10.4%の順でした。
- 人生100年時代を見据え、市民が生涯を通じて健康で生きがいを持って暮らすため生涯学習への関心を高めていく必要があります。また、市民の置かれた状況やさまざまな場面に応じた生涯学習サービスを充実させる必要があります。
- 市民の多様な生涯学習活動を通じて、地域社会とつながる仕組みづくりをさらに進め、元気なシニア世代が地域で活躍するなど、地域コミュニティの活性化に貢献していくことが重要です。
- 市内の生涯学習施設には老朽化が進んでいるものもあることから、計画的に改修、整備し、施設の長寿命化を図っていく必要があります。
- 小牧市の図書館の利用者数及び貸出冊数はともに平成21(2009)年度をピークに減少傾向です。市民の生涯学習に役立つ資料を揃え、さまざまな読書相談に応じるとともに、近年では滞在型の機能も重視されており、市民の情報と交流の拠点として活発に利用される図書館が求められています。
- 図書館本館は建設から約40年が経過し老朽化・狭あい化していることから、Wi-Fi環境の整備やタブレットの貸出などさまざまなニーズに対応した新たな図書館の整備を進める必要があります。

【参考データ】



【関連条例・関連計画】

- ・第3次小牧市生涯学習推進計画
- ・小牧市教育振興基本計画

◆基本施策の目的及び状態指標

【基本施策の目的:目指すまちの姿】

豊かな人生を支える、生涯を通じて学ぶことができるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合	28.4%	↗

◆基本施策の体系

基本施策	生涯学習	展開方向	内容
		展開方向1	誰もが学びたいときに学ぶことができる環境を整備します
		展開方向2	自らの学びを社会や地域に還元し役立てるようにするとともに、互いに学び合い育ちあう関係を創出します
		展開方向3	図書館サービスを充実します

◆展開方向1：誰もが学びたいときに学ぶことができる環境を整備します

【目標】

- 生涯学習に取り組んでいる市民を増やします。
- 公民館などの生涯学習施設の環境を整備します。

【手段】

- 市民講座、高齢者学級、退職後の学び直しなどを通じ、生涯学習活動のきっかけづくりをします。
- 施設の老朽化などに対応し、施設設備の修繕を計画的に行います。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
市民講座受講者数	1,815人	↗
公民館利用率	46.6%	↗

◆展開方向2：自らの学びを社会や地域に還元し役立てるようにするとともに、互いに学び合い育ちあう関係を創出します

【目標】

- 生涯学習を推進する人材の育成を図ります。
- 学習活動に必要な情報発信や相談体制を充実します。

【手段】

- 生涯学習に関するボランティア、コーディネーター、サポーターなど、地域で活躍できる人材を育成するための講座を開催します。
- 市内にある5つの公民館が連携し、市民の学びを支え、生涯にわたる学習を保障する拠点としての機能を強化し、幅広い分野での情報発信や相談体制の充実を図ります。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
生涯学習の支援や指導に関わった市民の割合	7.7%	↗
生涯学習に関する相談件数	300件	↗

◆展開方向3：図書館サービスを充実します

【目標】

- 今まで利用してこなかった市民や若年世代の利用を増やします。
- 課題を抱えている市民の問題解決のため、資料を充実し、相談件数（読書案内）を増やします。
- イベントなどへの参加者数を増やします。また、市民参画の機会と場を提供します。
- 新小牧市立図書館の整備を推進します。

【手段】

- 保育園や小学校への配本サービスを拡大します。
- 市民の生涯学習や研究、地域の課題に対して資料や情報を提供するレファレンスサービス*の充実を図ります。
- 小牧の歴史・文化・産業の発信地となるように郷土資料や地域資料の収集提供の充実を図ります。
- ボランティアや市民団体などの図書館運営に協力する市民を増やし、さまざまなイベントを工夫して企画、実施します。
- 新図書館では滞在型の図書館を目指し、Wi-Fi環境の整備を行うとともにタブレットの貸出、ICT機器の導入、デジタル情報（電子書籍、データベース）の提供を進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目指す方向
貸出利用者数	197,844人	↗
貸出密度（貸出延べ冊数/人口）	6.4冊	↗
レファレンス処理件数	6,130件	↗
図書館が開催する講座、行事などへの参加者数	7,159人	↗